

## 特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

### ASEAN グローバルプログラム に参加して

中西 拓  
Taku NAKANISHI  
情報メディア学科 2年

#### 1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナムのハノイ、シンガポールにおいて、企業見学や大学訪問、講演会等を含む ASEAN グローバルプログラムに参加した。具体的なプログラムの日程は表に示す。

表 研修日程

8月29日(火)	ベトナム入国(ハノイ) オリエンテーション(ホテル)
8月30日(水)	企業訪問(3企業)
8月31日(木) 9月1日(金)	ハノイ工業大学において 現地学生とのPBLおよび発表
9月2日(土)	博物館見学等、自由時間
9月3日(日)	ベトナム出国、シンガポール入国 博物館見学等
9月4日(月)	南洋理工大学において キャンパスプログラム
9月5日(火)	トークセッション(2名) ビジネスパーソンとの交流会
9月6日(水)	自由時間(オプションツアー) シンガポール出国
9月7日(木)	帰国

#### 2. 志望動機

私は将来において日本国内だけではなく、グローバルに活躍したいと高校生の時から考えていた。国内の企業の工場が海外にあることも多く、そこで活躍されている日本人の方も多いと聞く。私はその人たちは何をしているのか、日本で働くよりも価値があるのかについて興味を持っていた。また、高校生の時はチャレンジ精神が全くなく、言われたことをやるだけの日々だった。そこで、高校で成長出来な

かった分、大学で何か新しいことに取り組み、自分自身を変えていきたいと感じた。従って、この機会にどんどん新しいことにチャレンジしようと考え、この ASEAN グローバルプログラムに参加することを決意した。

#### 3. 企業訪問

今回ベトナムで訪問した企業は Takagi Vietnam, Rikkei soft, NTQ の3社であった。ここでは主に現地企業である Rikkei soft と NTQ について報告する。

Rikkei soft はベトナムの IT 企業である。この企業はハノイにあるビルにオフィスがある。社長は日本の大学を卒業しており、日本で学んだ知識を活かして企業を作られたとのことであり、一部の社員は日本語が話せた。今回はその日本語が話せる社員の方との交流会があった。交流会ではベトナムについて疑問に思ったことや、お互いの国の文化について話し合った。社員の方々は凄くフレンドリーで話しやすく感じた。恐らく仕事においてもいい意味でフレンドリーだと思うので日本とは違うだろうと感じた。次に訪問したのがベトナムの IT 企業 NTQ である。こちらも同じビルにオフィスがあった。NTQ では主に日本のお客と共にソフト開発の仕事をしている。日本をターゲットとしている理由は日本の企業は長い期間一緒に仕事をしてくれるからとのことであった。NTQ も Rikkei soft と同様に日本語が話せる人と交流会をし、ベトナムのことや NTQ のこと聞いた。二つの企業のオフィスを見て日本とは違うだろうと感じたことがあった。それは一人一人が黙々と仕事をするのではなく、常に誰かと相談しながら仕事をしていたことである。上司や部下など関係なく自分の意見を伝えることができるのは日本では難しい事だと想像する。社員の方々は仲が良く雰囲気が良いと感じ、このような職場で働ける企業が魅力的だと感じた。

## 4. PBL

ベトナムのハノイ工業大学と共に PBL を行った。今回の PBL のテーマはベトナム人若年層の美意識調査であった。そのため日本学生 5 人とベトナム学生 2 人のグループが作られ、日本のブランド「ユニクロ」の商品をどのように売ればいいのか、ということが課題であった。話し合いは全て英語で行い、分からない言葉が出てきた場合などはジェスチャーを使いコミュニケーションをとった。実際にアンケートを英語で作り、ベトナム人学生と共に大学のキャンパスとホアンキエム湖周辺で調査（アンケートへの回答依頼）を行った。約 200 枚のアンケート結果が得られ、それら元にしてプレゼンを行うために模造紙に結果をまとめ、PBL の最後にビジネスパーソンの前でプレゼンを実施した。うまく伝えることができたかどうかは分からないが 2 日間かけて作成したのでやりがいを感じた。



写真 PBL 時の班の集合写真

## 5. 南洋理工大学

シンガポールにある南洋理工大学を訪問するプログラムもあった。南洋理工大学はアジアでナンバーワンの大学であり、200ヘクタールの敷地の中で23,500人以上の学部生と10,000人の院生が教育を受けているとのことであった。今回は実際に現地の学生が受けている授業にも参加できた。授業は熱伝導についてだったが、もちろん全て英語であった。

また、3つの研究室も訪問した。この大学は多くの国の学生がおり、日本では考えられないような光景であり、学生はやる気に満ち溢れている様子に思えた。

## 6. 講演会

シンガポールでは他に、数名のビジネスパーソンの講演と交流会もあった。そこでの皆さんに共通していたのが初めから海外で仕事するとは思っていなかったこと、英語にはそこまで苦勞していなかったなどがあった。そして仕事をする上で日本とは違って上下関係が強くない、納得するような説明をしないと動いてくれないとおっしゃっていたことが印象的だった。また加藤氏の講演では、これからの時代アウトプットが重要であるということが強く印象に残った。自らがアウトプットしていかないとこの社会では生きていけないとのことで、自分自身が持つ能力を積極的アウトプットしていくことが今後の私にとっても課題だと感じた。

## 7. おわりに

今回の ASEAN グローバルプログラムに参加して得たことがいくつかある。まず、英語についてである。全て英語でのやり取りだったので苦勞した。英語が話せたらもっと現地の大学生とコミュニケーションを取れたと思う。しかし、以外にもジェスチャーや単語だけでも通じることを知れたので海外でもやっていける自身がついた。また、5人班の行動が基本だったので協調性がついたと感じる。日が経つに連れ、班の中での役割が明確になり互いにカバーし合いながら進めることができた。私は班長だったのでみんなの意見を聞き、まとめることができたようになったと感じた。志望動機でも述べたように英語で外国人に積極的に話すなどにも挑戦できた。このプログラムから得られたことは一生の財産になると確信できる、これからの人生の糧となると思う。